

＜こうた女性の会の成り立ち＞

「こうた女性の会」は、終戦後間もない昭和23年(1948)に、当時の幸田村(昭和27年(1952)に幸田町になる)と豊坂村がそれぞれの会長を立てて、女性の自主団体である婦人会として発足しました。その後、昭和29年(1954)の町村合併により、新たな「幸田町地域婦人会」となり、以来、「明るい家庭と住みよい町づくり」を目指して活動を続けています。発足当時は、町婦人会の下に小学校区ごとに6つの支部を置く支部制をとっており、額田郡婦人会(平成7年(1995)休会)としての活動も行っていました。その後、会員減少の対策として平成8年(1996)に支部制から区単位制(15区が参加)となり、平成9年(1997)に、名称を現在の「こうた女性の会」に変更し、現在に至っています。

発足間もない昭和30年代には、食事のバランスを改善する栄養改善やお金を積み立てて台所にコンロや流し台を付ける生活改善が活動の中心であったようです。これらの活動に対して、厚生大臣や中部9県からの表彰を受けています。また、昭和40年代に入ると、婦人会の脱会者が出始めたために、昭和44年(1969)にお好みコース(手芸・編み物・お茶・お花・書道等)を作り、魅力ある婦人会へと活動の幅を広げていきました。また、農繁期には託児所も開いていたようです。こうした地道な活動が評価され、日本赤十字社より、平成23年(2011)には「銀色有功章」、平成30年(2018)には「金色有功章」をいただいています。

一方、現在も続いている衣裳室(貸衣裳)は、昭和27年(1952)、当時の本多伴吉幸田町長さんが生活改善の一環として結婚式の簡素化のために購入資金(100万円)を出してくださり、名古屋の松坂屋で振袖5枚、留袖3枚を購入して始まりました。当時は、自宅での結婚式だったので、大変喜ばれたようです。その後、平成8年(1996)に町民会館のオープンに伴い、現在の場所に移転しました。町民の方々に愛され、平成22年(2010)頃までは売り上げも好調で、平成14年(2002)～平成26年(2014)までの間、こうた女性の会は町補助金を受けずに、衣裳室の利益で活動資金を賄っていました。また、衣裳室はコロナ禍もなんとか乗り切っています。



昭和23年(1948)	8月	<u>幸田村・豊坂村に自主団体(地域婦人会)として発足</u>
昭和27年(1952)		幸田村が幸田町になる。結婚式簡素化のため、町より100万円の衣裳購入費の提供を受けて貸衣裳事業を開始する。(名古屋松坂屋で振袖5枚、留袖3枚を購入)
昭和29年(1954)		<u>豊坂村と合併。新たな「幸田町地域婦人会」となる。小学校区ごとの6支部制で運営</u>
平成8年(1996)	4月	<u>支部制から区単位制に変更。15区参加(長嶺、久保田、坂崎、新田、岩堀、横落、荻、芦谷、幸田、野場、永野、六栗、上六栗、桐山、須美)</u>
	8月	<u>町民会館オープン。衣裳室移転(幸田中学校体育館下、中央公民館から、町民会館の貸衣裳室に移る)</u>
平成9年(1997)	4月	<u>「幸田町地域婦人会」から、「こうた女性の会」に変更</u>
平成13年(2001)		幸田町地域婦人会(こうた女性の会)50周年記念誌発行
平成16年(2004)	4月	こぶし(女性の会がない区の有志会員)を設立
平成23年(2011)	11月	日本赤十字社「銀色有功章」受章
平成28年(2016)	4月	<u>愛知県地域婦人団体連絡協議会からの退会を受け、町の活動に集中する。</u>
平成29年(2017)	12月	日本赤十字社「金色有功章」受章
令和2年(2020)	4月	区女性の会の脱会と、有志による学区女性の会の設立が進む。
令和7年(2025)	4月	岩堀区女性の会の解散により、完全に有志による会員組織となる。深溝小学区(設立準備中)以外の学区において学区女性の会が設立され、コミュニティの組織として位置付けられる。
令和8年(2026)	4月	すべての学区女性の会がコミュニティの予算措置を受ける。